

2024年度日本芸術院賞

彫刻家・勝野氏 俳人・長谷川氏ら

3人には、特に業績が顕著として恩賜賞も贈る。

ほかに美術部門で洋画家の小杉小二郎さん(81)、日本画家の西田眞人さん(72)、工芸家の武腰一憲さん(68)、書家の日比野博鳳さん(65)を選出。文芸部門で俳人の長谷川権さん(71)・宇城市出身、音楽・演劇・舞踊部門で能楽師の梅若紀彰さん(68)、歌舞伎俳優・日本舞踊家の尾上松緑さん(50)を選んだ。

川上さんは「蛇を踏む」や「センセイの鞆」といった小説で知られ、芥川賞など数々の国内文学賞を受賞。海外での翻訳も多く「これからの日本文学を支える柱」と評価した。

勝野さんは2006年に崇城大芸術学部教授に就任し、同学部長などを歴任。昨年の第11回日展で集大成といえる裸婦彫刻「蓮」を発表し、「具象彫刻の厳しさ」と可能性を追求し続けるその姿勢は、次代の模範となる」とされた。

長谷川さんは句集「虚空」で読売文学賞、俳論集「俳

句の宇宙」でサントリー文学賞を受賞するなど創作と批評の両面にわたって優れた業績を残した。本紙文化面でエッセー「故郷の肖像」

を連載している。授賞式は6月24日に日本芸術院会館(東京)で開く予定。例年、天皇、皇后両陛下が出席される。